

# 不正リスク管理の実践的方策

～ 様々な観点から不正リスク管理の取組み実務事例のほか、海外子会社における不正リスク管理や経済同友会がカルテルの予防策として明記した「電子メール監査・調査」の実践についても解説！ ～

【開催要領】 ※講師とご同業の方のご参加はお断りする場合がございます。※最少催行人数に満たない場合、開催中止とさせていただきます。

日時▶ 2016年 9月12日(月) 10:00～17:00

会場▶ 企業研究会セミナールーム(東京:麹町)

【ご参加頂きたい方】

- ・法務部門、総務部門、監査部門、経営企画部門など関連部門のご担当者、管理職の方
- ・リスク管理体制、コンプライアンス体制構築のご担当者

講師 (株)KPMG FAS フォレンジック部門所属  
マネージングディレクター(公認会計士) 林穂 氏

講師 (株)KPMG FAS フォレンジック部門所属  
マネージャー 佐野智康 氏

講師紹介  
中央大学商学部会計学科卒業。1991年に朝日新和会計社(現あずさ監査法人)入所。以来、会計監査を中心に、様々な企業の内部管理体制に関する業務に従事。1999年から本格的に「リスクマネジメント」、「コンプライアンス」、「内部監査」等を中心とした支援業務を担当。製造業、金融機関・勧誘関連サービス事業、電鉄会社、不動産業、広告業など様々な企業等の支援業務に従事。不正リスク管理を含むコンプライアンス体制の構築支援等に関する支援業務の実績は多数。あずさ監査法人、BRC 事業部、KPMG ビジネスアジャランス㈱、あずさ監査法人ビジネスアドバイザー事業部、KPMG ビジネスアドバイザー一階での勤務を経て、現在、(株)KPMG FAS のフォレンジック部門に勤務し、海外贈賄リスク対応を含むグローバルリスク管理、海外事業管理のほか、不正リスクマネジメント体制構築の支援業務に従事。

講師紹介  
慶應義塾大学大学院理工学研究科卒。2006年に投資会社に入社し、投資先の選定・実行・投資後の管理業務に従事。2009年に(株)KPMG FAS に入社し、フォレンジック部門にて不正会計・横領・インサイダー取引・外国公務員への贈賄・カルテル等に関する第三者委員会や社内調査における、不正調査や再発防止体制の構築支援に従事。現在、贈賄・カルテル等のグローバル・コンプライアンス体制の構築や、Eメール監査等の支援業務に従事。

【申込書送付先】 FAX▶03-5215-0951 ※当会 HP からもお申し込み頂けます。企業研究会Q 検索

■受講料: 1名( 税込・昼食代含 ) ※申込書を FAX でご送信いただく際は、FAX 番号をお間違えないようご注意ください。

正会員	41,040円 (本体価格 38,000円)	一般	45,360円 (本体価格 42,000円)
-----	------------------------	----	------------------------

161434-0303(※) 不正リスク管理の実践的方策

ふりがな 会社名			
住所			
TEL		FAX	
ふりがな ご氏名		所 役	属 職
E-mail			

※申込書にご記入頂いた個人情報は、本研究会に関する確認・連絡および当会主催事業のご案内をお送りする際に利用させていただきます。

- 参加要領: 申込書は FAX、または下記担当者宛 E-mail にてお送り下さい。当会ホームページからもお申し込み頂けます。後日(開催日1週間～10日前までに)受講票・請求書をお送り致します。
- ※よくあるご質問(FAQ)は当会HPにてご確認いただけます。([TOP]→[公開セミナー]→[よくあるご質問])
- ※お申し込み後のキャンセルはお受け致しかねますので、ご都合が悪くなった場合、代理出席をお願いします。
- お申込・お問合わせ先: 企業研究会 公開セミナー事業グループ 担当/川守田 E-mail: [kawamorita@bri.or.jp](mailto:kawamorita@bri.or.jp)  
TEL: 03-5215-3514 FAX: 03-5215-0951 〒102-0083 東京都千代田区麹町5-7-2 麹町 M-SQUARE 2F

## プログラム

1. 総論ー積極的な不正リスク管理の重要性
  - 不正・不祥事とは何か/不正等の整理
  - 内部統制報告制度に係る期待ギャップ
  - 積極的な不正リスク管理の必要性/不正リスク管理プログラム
2. 統制環境のポイント
  - 説明責任の連鎖における経営者・管理者の役割
  - コンプライアンス担当部署・責任者・担当者等の役割
  - 各種リスク報告・経営報告制度と「総括」の重要性
  - 行動規範・行動指針等の策定
  - 社内ルール遵守の徹底/法令遵守・法務リスク管理の徹底
  - 人事評価・業績評価/懲罰基準の整備と運用
  - 教育研修・周知徹底策/コミュニケーション・風通しの重要性
3. リスク評価と予防的コントロール機能のポイント
  - リスク評価のポイント/典型的なコントロール手続
  - セッション方式によるグループワーク/不正リスク評価演習
  - 原因分析による予防的コントロールの設計
4. 発見的コントロール・モニタリング機能のポイント
  - 発見的コントロール・モニタリングの重要性/様々なモニタリング形態
  - モニタリング指標(リスク感度指標)の活用
  - CAAT による内部監査・内部統制評価
  - 内部通報制度の運用/従業員アンケート調査
5. 不正・不祥事の発生時の対応のポイント
  - 不正・不祥事の疑義発生時・発覚時の調査
  - 調査を円滑にするための環境
  - 海外法令違反を踏まえた不法行為発覚時対応の注意点
6. 電子メール監査の実務のポイント
  - 電子メール監査(調査)が有効な場面
  - 電子メールのモニタリング手法の分類と特徴
  - 電子メール監査の準備・実施等の実務上のポイント
  - 電子メール監査の手順と実務事例
7. 海外リスク管理のポイント
  - 海外グループ管理における不正リスク管理のポイント
8. 最後にー全体最適に向けた内部統制の再設計の必要性

### ■開催にあたって■

財務報告に係る内部統制報告制度への対応が一巡した今、「内部統制に取り組んでいるのに、不正事例が減らない、または不正事例が発生しているのはなぜか?」と疑問の声をあげる経営管理者・企業が増えつつあります。また、日本企業の海外事業の拡大に伴い、海外グループ会社での不正事例も増えています。

そこで、本講座では、積極的な不正リスク管理の重要性を解説するとともに、不正リスク管理に有効な統制環境・予防的コントロール・発見的コントロール・モニタリング機能の向上のための実践的な実務ノウハウを紹介・解説します。その上で、海外グループ管理の向上にもつながる不正リスク管理の実践のためのポイントのほか、実際に不正・不祥事が発生した場合における対応実務のポイントを解説します。

さらに、不正リスク管理に有効と考えられている電子メール監査の実務について解説します。

最後に、今後の内部統制関連活動が形骸化しないよう、全体最適の観点から内部統制関連活動のPDCAの仕組みの再構築の必要性や海外グループ管理における不正リスク管理について考えていきます。

※コンサルタント業など講師とご同業の方のご参加はお断りする場合がございます。  
※最少催行人数に満たない場合、開催中止とさせていただきます。

裏面もご覧下さい! 一枚のパンフレットで 2種類のセミナーをご案内しております。